



## 上行寺のイチョウと 十三講祭り (迫)

迫町森にある上行寺は、日目上人が開いた寺で、弘安6年(1283)上人が法華堂を建てたのが始まりといわれ、その後の弘安10年(1287)に寺田城主三浦対馬守が厚く信仰したことによって、現在の地に建立された。境内のイチョウは文明18年(1486)に植えられたもので、幹囲り約5m、高さ約30mの大木で、天保10年(1839)2月に起きた火災で寺が焼失した際、このイチョウも一緒に焼けてしまいました。その後、見事よみがえったことから「蘇生の銀杏」として伝えられています。

【所在地】 登米市迫町森字東表82-1  
【問い合わせ】 迫総合支所 地域生活課 ☎0220 (22) 2213

また、晩秋に霜の重さで一斉に葉が落ちることが数年に一度あり、その翌年は豊作になるともいわれています。森地区の祭りとして親しまれている「奥州森邑十三講秋祭り」は、もともとは「十三講祭り」として、長く寺の境内で行われていました。現在では毎年11月に森公民館などを会場に、「少年剣道大会」や「区民芸能祭」、「伊達なおいとこ踊り宮城大会」などのイベントが開催され、多くの人が訪れにぎわいをみせています。

歴史博物館

## 広報ミニ展示室 31

= 疎開学童小張丸吉画帳 =



昭和20年当時の米谷地区の町並みが描かれています

戦争末期、登米地域に集団疎開してきた学童数は把握できているだけで1533人(杉並区立郷土博物館調べ)。疎開したといっても、当時は食糧難で雑草さえ食べるほど深刻でした。写真は、疎開学童が東京に帰ることになった昭和20年の秋、当時米谷町(現東和町米谷)に疎開していた小張丸吉さん(当時13歳)が、思い出の情景や生活の様子を描き残したものです。疎開学童にとって登米市が「第2のふるさと」であることを願い、博物館では学童疎開の展示会を開催しています。

秋の  
全国火災予防運動

## 防火ポスターコンクール

消防本部では秋の火災予防運動にちなみ、市内の小中学生を対象に「平成20年度防火ポスターコンクール」を実施しました。入賞者は次のとおりです(敬称略)。

### ■登米市消防長賞



佐藤春希  
(登米小6年)



及川まどか  
(津山中3年)

- 県消防協会登米支部長賞 ▶下平りお(加賀野小5年)▶高橋知華(新田中2年)
- 優秀賞 ▶千葉咲月(豊里小・中1年)▶長南晴香(加賀野小2年)
- ▶油井拓樹(西郷小4年)▶菱沼龍介(加賀野小5年)▶阿部穂野花(佐沼小5年)
- ▶武田聖羅(登米小6年)▶白鳥楓佳(南方小6年)▶武川龍二(南方小6年)
- ▶熊谷大州(津山中2年)▶大森琴絵(津山中3年)※応募総数303点



「モバイルとめ」もご利用ください。  
<http://www.city.tome.miyagi.jp/m/>



登米市メール配信サービスが新しくなりました。  
tome@entry.mail-dpt.jp (携帯用)